

# 小学5年 社会 — 解答と解説

## 1

問1	問2	問3	問4	問5
イ	g	エ	ロシア	イ
21	22	23	24	25
問6		問7		
ラムサール (条約)		(1) ウ	(2) ウ	(3) 千島 (海流)
26		27	28	29
問7		問8	問9	問10
(4) ア	(5) ウ	ア	川 (かわ)	ア
30	31	32	33	34
問11	問12			
イ	エ			
35	36			

## 2

問 1	問 2	問 3	問 4	
ウ	打 製 (だ せい) (石器)	オ	ウ	
37	38	39	40	
問 5	問 6	問 7	問 8	問 9
大 森 (貝塚)	イ	エ	ア	(1) 奴 (な) (国)
41	42	43	44	45
問 9	問10	問11	問12	問13
(2) エ	ウ	埴 輪 (は に わ)	カ	ウ
46	47	48	49	50

(配点)

③ 問6 5点

① 問7 (2) ③ 問7a 問7b 3点

上記以外各2点 計100点

3

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
ア	ウ	エ	エ	イ

51

52

53

54

55

(例)	問 6
調に付けられた荷札の一部が木簡として出土し、	
そこに特産品の内容が示されていたから。	

56 57 58

問 7			問 8	問 9
a	6	b	男女	東大 (寺)

59

60

61

62

問10	問11	問12	問13	問14	問15
イ	ア	エ	イ	ア	イ

63

64

65

66

67

68

問16
厳島 (いつくしま) (神社)

69

## 【解 説】

## ① 北海道地方に関する問題

## 問1 A2 置き換え 比較 理由

aの洞爺湖、bの支笏湖、cの屈斜路湖、dの摩周湖はいずれも火山の活動により形成されたカルデラ湖です。カルデラ湖は火山の中央部が陥没するなどの原因で形成された、大きなすり鉢状の窪地であるカルデラに水がたまってできた湖です。アは断層湖のことで琵琶湖や諏訪湖などが該当します。ウは潟湖のことでiのサロマ湖などが該当します。エは三日月湖のことで石狩川の流域などで見られます。

## 問2 B1 視点を变える 置き換え 分類

オホーツク海に突き出たgの知床半島では、原生林やヒグマなどを始めとする豊かな生態系が見られることなどから、2005年に「知床」として世界遺産に登録されました。eは亀田半島（渡島半島南部の東側にある半島）、fは積丹半島、hは根室半島です。

## 問3 B1 視点を变える 置き換え 関係づけ

iのサロマ湖ではほたて貝の養殖が盛んです。サロマ湖は北海道東部にある潟湖で面積が約151km<sup>2</sup>と北海道で最大、全国で3番目に大きい湖です。砂州によりオホーツク海と隔てられていて、周辺は出入りの少ない単調な海岸線となっています。

## 問4 B1 視点を变える 置き換え 関係づけ

日本政府は択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は日本固有の領土であるとして、現在占領しているロシア政府に返還するよう要求しています。

## 問5 A2 置き換え 比較

日高山脈は北海道の中央の南側にある山脈で、長さはおおよそ狩勝峠付近から襟裳岬までの約150kmです。石狩山地は北海道の中央部、天塩山地は北海道の北西部、北見山地は北海道の北東部にそれぞれあります。

## 問6 A1 知識

湿原は淡水によって湿った草原のことで、日本では北海道の他に東北地方でも大規模なものが見られます。湿原は鳥類などの生息地となっていることが多く、ラムサール条約で保護されている場所も多くなっています。ラムサール条約は正しくは「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、鳥類などの生息地となっている湿地や干潟を保護するための条約です。北海道では釧路湿原・阿寒湖・ウトナイ湖・野付半島などが登録地となっています。1971年にイランのラムサールで採択されました。

## 問7

## (1) A2 比較

酪農は乳牛を飼育し、酪農品の販売を目的として行われる農業です。大都市に近い地域や、冷涼で湿潤な気候の地域で発達しています。ウの事実はありません。

## (2) B1 特徴的な部分に注目する 比較 置き換え

帯広の7月の平均気温は18.9℃で、東京の5月の18.8℃、10月の18.0℃とほぼ同じとなります。

## (3) A1 知識

夏を中心に、南東から吹いてくる季節風が寒流の千島海流の上を通るときに冷やされることによって濃霧が発生しやすくなります。千島海流は千島列島に沿って南下しながら流れてくる寒流で、栄養分に富んでいるため親潮とも呼ばれます。

## (4) A2 比較

てんさいはビート、砂糖大根とも呼ばれる農作物で、根を搾って砂糖の原料とし、葉や搾りかすは飼料としています。冷涼な気候を好む作物で、ほぼ全量が北海道で生産されています。国内で生産される砂糖の約75%はてんさいを原料としています。

## (5) A2 比較

輪作とは、同じ土地で異なった作物を1年から数年ごとに順番に栽培して地力の回復を図る栽培方法のことです。単作は同じ土地で1種類の作物を栽培すること、連作は同じ土地で同じ作物を繰り返し栽培すること、裏作はある作物の収穫後他の作物を栽培することです。

## 問8 B1 視点を変える 置き換え 関係づけ

nの室蘭市は金属工業のうち鉄鋼業が盛んです。oの札幌市は食料品工業のうち乳製品の生産が盛んです。北海道の2022年の製造品出荷額は約6兆6413億円で、そのうち約35.9%（約2兆3854億円）を食料品が占めています。pの旭川市では製紙業パルプ工業が盛んです。製紙業パルプ工業が盛んな都市には他に苫小牧市や釧路市があります。qの釧路市は水産加工が盛んです。水産加工の盛んな都市は他に小樽市や函館市があります。

## 問9 B1 視点を変える 推論 置き換え

北海道ではアイヌ語で川や水辺を意味する「ペツ（ベツ）」や「ナイ」のつく地名が多くなっています。アイヌは北海道などの先住民で、アイヌ語起源の地名が数多くあります。アイヌは北海道の開拓が始まった江戸時代末頃から同化を強いられ、現在では北海道内に約2万人が居住しています。

## 問10 A2 比較 具体・抽象

北海道の家では様々な寒さへの対策がとられています。イ、ウ、エの他にろう下を少なくして暖かい空気を逃がさないための工夫なども見られます。

## 問11 B1 特徴的な部分に注目する 比較 置き換え

北海道は東京などの大消費地から遠く離れているため、生産された生乳の多くはバターやチーズなどに加工されています。乳用牛は東京への牛乳の出荷を背景として、栃木県など首都圏の県でも多く飼育されています。アは肉用牛、ウはたまねぎ、エはにんじんの都道府県別割合を示しています。

## 問12 A2 分類

たい類は長崎県、兵庫県、福岡県、愛媛県など西日本の各県の漁獲量が多くなっています。北海道の2022年の漁獲量は5トンで、たい類の漁獲量のある都県では東京都に次いで少なくなっています。

## 2 旧石器時代～古墳時代の歴史に関する問題

## 問1 A1 比較

群馬県の岩宿遺跡で、相沢忠洋により1946年に石器が発見され、その後の学術調査により、その石器が旧石器時代のものであると確認されました。この結果日本にも旧石器時代があったことが明らかになりました。長野県にある野尻湖遺跡では、ナウマンゾウの歯の化石などが発見されました。福井県にある鳥浜遺跡は縄文時代の遺跡で、丸木船などが出土しています。三内丸山遺跡は青森県にある縄文時代の遺跡で、計画的なむらづくりや栗の栽培跡などが見られます。

## 問2 A1 知識

旧石器時代の石器は、主として石を打ち欠いてつくった打製石器です。縄文時代になると、石を磨いてつくった磨製石器が広まりました。

## 問3 A2 比較 具体・抽象

長野県野尻湖遺跡からは、ナウマンゾウやオオツノジカの化石や旧石器時代の石器や骨器などが発見されています。氷河期に海面が低下し、対馬海峡や東シナ海で日本が大陸と陸続きになっていたときに、オオツノジカやマンモス、ナウマンゾウは日本に渡ってきたとされています。2万年前は現在より気温が低く、海面が120m低かったと推測されています。

## 問4 A2 比較 具体・抽象

粘土を焼いてつくった土器は、主として食べ物を煮炊きするためにつくられました。

## 問5 A1 知識

東京都にある大森貝塚は、1877年にエドワード・モースによって日本初の発掘調査が行われた貝塚です。貝塚は集落の一部にあり、当時食べられていた団栗や栗、山菜などの食物の残りかすや土器の破片、石器などが捨てられていました。

## 問6 A2 比較 理由

土偶は縄文時代につくられた土人形で、魔除けや子孫の繁栄を祈ったりするため、栗などが多く収穫されることを願ったりするため、などに使用されたのではないかとされています。

## 問7 A2 分類

石包丁は稲の穂を摘み取るのに使われた半円形の石器です。うすやきねは脱穀のための木製の農具です。田げたは水田に足がめりこまないようにはく下駄で、弥生時代の田は低湿地にある深田が多かったため使用されました。

## 問8 A2 分類

青銅器は主に銅と錫からつくる合金である青銅でできています。青銅器のうち銅たくは初め樂器として使用されましたが、後には祭りの道具として用いられるようになりました。表面に高床倉庫など当時の生活の様子が描かれているものも見られます。その他の青銅器としては銅矛や銅剣があります。本来は武器でしたが、非実用的なものも多く見られます。銅銭は奈良時代頃から鑄造されましたが、鎌倉時代や室町時代では中国から輸入された銅銭が広く使用されました。

## 問9

## (1) A1 知識

『後漢書』東夷伝には、1世紀の半ば頃の奴国が中国に使いを送って金印をもらったことが記されています。奴国は1世紀から3世紀にかけて、現在の福岡県博多地方にあった小国で、金印には『漢委奴国王』と刻まれています。金印は1784年に福岡県の志賀島で発見されました。

## (2) A2 比較

『魏志』倭人伝には、3世紀初め頃に卑弥呼という女王が呪術をもって邪馬台国を治めていたこと、邪馬台国には身分の差があったことなどが記されています。『後漢書』東夷伝には、1世紀の半ば頃の奴国が中国に使いを送って金印をもらったことが、『宋書』倭国伝には5世紀頃の日本の様子が、『漢書』地理志には、紀元前1世紀頃の日本が100あまりの国に分かれていたことが、記されています。

問10 A2 比較

大山古墳（大仙陵古墳、仁徳天皇陵古墳）は大阪府堺市にあり、全長約486mの日本最大の前方後円墳です。5世紀頃築造されました。埼玉県にある稲荷山古墳から1968年に出土した鉄剣に、「ワカタケル大王」と読める文字が記されていたことが、1978年に判明しました。「ワカタケル大王」は雄略天皇であると推定されていますので、このことから当時の大和政権の勢力が関東地方にまで及んでいたことが分かります。熊本県にある江田船山古墳からも「ワカタケル大王」と考えられる文字が刻まれた鉄刀が出土しています。石舞台古墳は奈良県にある蘇我馬子の墓とされている古墳です。

問11 A1 知識

埴輪は古墳の上や周囲に並べられている土製品で、人や家、舟をかたどったものの他に円筒形のものなどがあります。

問12 B1 特徴的な部分に注目する 比較 置き換え

aの高句麗は朝鮮半島北部にあった国で、大和政権と4世紀末から5世紀初めにかけて対立していたことが、現在の中国吉林省に残されている、414年に建立された高句麗好太王碑に記されています。bの百濟は朝鮮半島西部にあった国で、日本と交流があり儒教や仏教を伝えました。660年に新羅に滅ぼされました。cの新羅は朝鮮半島東部にあった国で、7世紀に朝鮮半島を統一しました。

問13 A2 分類

渡来人とは、4世紀頃からおもに朝鮮半島から日本に移り住んだ人々のことです。渡来人により儒教や漢字、仏教といった文化や、土木工事や養蚕・機織り、すえ器を焼く技術などが日本に伝えられました。竪穴住居は渡来人が日本に来る前から日本で見られた住居形態です。

③ 飛鳥時代～平安時代の歴史に関する問題

問1 A2 比較

604年に制定された憲法十七条には、豪族たちが争いをやめて話し合いを尊重し、天皇に服従することや、仏教を尊重することなど、豪族たちの役人としての心構えが記されています。憲法と名前がついていますが、現在の日本国憲法とは意味合いが異なります。イは厩戸皇子（聖徳太子）が603年に設けた冠位十二階の制度の内容で、家柄にとらわれず才能のある人などを朝廷の役人に取り立てるために定められた制度です。ウは摂政、エは大和政権の氏姓制度の説明です。

問2 B1 特徴的な部分に注目する 比較 理由

厩戸皇子（聖徳太子）らは日本と隋が対等な立場であることを認めてもらうことを目指し、「日

出づる<sup>ところ</sup>の天子、書を日没<sup>ぼつ</sup>する処<sup>ところ</sup>の天子<sup>いた</sup>に致<sup>いた</sup>す…」と記された国書<sup>おののいもこ</sup>を小野妹子<sup>たく</sup>らに託<sup>たく</sup>しました。国書<sup>こくし</sup>は隋<sup>そう</sup>の皇帝<sup>こうてい</sup>煬帝<sup>やうてい</sup>に届<sup>とど</sup>けられましたが、煬帝<sup>ひじやう</sup>は文面<sup>ぶんめん</sup>を見て「非常に無礼<sup>むれい</sup>であるので、このような内容<sup>ないよう</sup>の手紙<sup>てがみ</sup>は今後<sup>こんご</sup>見せるな」と怒<sup>おこ</sup>ったことが、『隋書<sup>ずいしよ</sup>』に記されています。『日本書紀<sup>にっぽんしよき</sup>』には607年に遣隋使<sup>けんずいし</sup>を送<sup>おく</sup>ったことしか記録<sup>きろく</sup>されていませんが、『隋書<sup>ずいしよ</sup>』には600年にも遣隋使<sup>けんずいし</sup>が派遣<sup>はけん</sup>されたことが記されています。

### 問3 B1 特徴的な部分に注目する 比較

エの法隆寺<sup>ほうりゆうじ</sup>は7世紀初めに厩戸皇子<sup>いかるが</sup>（聖徳太子<sup>こんりゅう</sup>）が大和<sup>いた</sup>の斑鳩<sup>はんこう</sup>に建立<sup>けんりゅう</sup>した寺院<sup>じいん</sup>です。金堂<sup>こんどう</sup>や五重塔<sup>ごじゅうだい</sup>は世界最古<sup>せかいじゅう</sup>の木造建築<sup>もくぞうけんちく</sup>として世界遺産<sup>せかいいさん</sup>に登録<sup>とうしやうだい</sup>されています。アの唐招提寺<sup>からしやうだい</sup>は759年に鑑真<sup>かんじん</sup>によって創建<sup>けんけん</sup>された寺院<sup>じいん</sup>で、境内<sup>けいだい</sup>にある金堂<sup>こんどう</sup>は770年～780年頃に、講堂<sup>こうどう</sup>は710年頃建造<sup>けんぞう</sup>されたものです。イの平等院鳳凰堂<sup>びやうどういんほうおうどう</sup>は1053年に藤原頼通<sup>ふじわらのよりみち</sup>によって建立<sup>けんりゅう</sup>された阿弥陀堂<sup>あみだどう</sup>です。ウの東大寺<sup>とうだいじ</sup>にある正倉院<sup>しやうくらういん</sup>は聖武天皇<sup>せいむてんわう</sup>の遺品<sup>いひん</sup>を収めた倉庫<sup>くら</sup>で、断面<sup>おさ</sup>が三角形<sup>さんかくけい</sup>の木材<sup>もくざい</sup>を井桁<sup>いげ</sup>に積み上げた校倉造<sup>あぜくらづく</sup>りとなっている部分<sup>ぶぶん</sup>があります。

### 問4 A2 比較

改新<sup>かいたしん</sup>の詔<sup>みことり</sup>には、氏姓制度<sup>しせいせいど</sup>による私地私民<sup>しちしひん</sup>を廃止<sup>はいし</sup>し、土地<sup>ちど</sup>や人民<sup>じん</sup>はすべて朝廷<sup>ていてい</sup>のものとするという公地公民制度<sup>こうちこうみんせいど</sup>や戸籍<sup>こせき</sup>の作成<sup>さくせい</sup>、全国<sup>ぜんこく</sup>を国郡里<sup>こくぐんり</sup>に分けることなども記されています。エは743年に出土<sup>こんとんえいねん</sup>された墾田永年私財法<sup>しざいほう</sup>のことです。墾田永年私財法<sup>しざいほう</sup>で私有地<sup>しやうち</sup>の永久所有<sup>えいきやう</sup>を認められたことにより、貴族<sup>きぞく</sup>や大きな寺院<sup>じいん</sup>や神社<sup>しんじ</sup>の私有地<sup>しやうち</sup>である荘園<sup>しやうえん</sup>が増加<sup>ぞうか</sup>していき、公地公民制<sup>こうちこうみんせい</sup>はくずれていきました。

### 問5 A2 分類

富本銭<sup>ふほんせん</sup>は天武天皇<sup>てんむ</sup>が在位中<sup>ざい</sup>の683年ころに鑄造<sup>ちやうぞう</sup>された銅銭<sup>どうせん</sup>ですが、それほど通貨<sup>つうか</sup>としては使用<sup>しやう</sup>されなかった、とされています。藤原京<sup>ふじわらきやう</sup>に都<sup>みや</sup>が移されたのは694年で、持統天皇<sup>じとう</sup>の時<sup>とき</sup>です。白村江<sup>はくそんかう</sup>の戦い<sup>いくさ</sup>は663年に朝鮮半島南部<sup>ちやうせん</sup>で起きた、日本・百濟軍<sup>ひやくせいぐん</sup>と唐・新羅軍<sup>しんらぐん</sup>の戦い<sup>いくさ</sup>です。日本は敗北<sup>はいふく</sup>し朝鮮半島<sup>ちやうせん</sup>での足場<sup>あしあな</sup>を失いました。都<sup>みや</sup>が天津宮<sup>てんじんぐう</sup>に移されたのは667年のことで、翌<sup>よく</sup>668年に中大兄<sup>なかつのおおえ</sup>皇子<sup>みこ</sup>は即位<sup>こうい</sup>し天智天皇<sup>てんじ</sup>となりました。

### 問6 B2 視点を考える 推論 理由

7世紀末から8世紀にかけて、都<sup>みや</sup>を起点<sup>しじょう</sup>として地方<sup>ちやうほう</sup>との情報<sup>じやうほう</sup>の伝達<sup>でんたつ</sup>や調<sup>てう</sup>の輸送<sup>しゆそう</sup>円滑化<sup>えんかつか</sup>などのため幹線道路<sup>かんせんだうろ</sup>が整備<sup>せいび</sup>されました。馬<sup>うま</sup>を備えた駅家<sup>えきや</sup>が置かれ、役人<sup>やくにん</sup>の往来<sup>わらい</sup>などに用<sup>もち</sup>いられました。地方<sup>ちやうほう</sup>の特産物<sup>とくさんぶつ</sup>を中央政府<sup>せうていせいふ</sup>に納める調<sup>てう</sup>は、中央政府<sup>せうていせいふ</sup>の主要な財源<sup>ざいげん</sup>となっていました。調<sup>てう</sup>には荷札<sup>にがし</sup>が付けられ具体的な特産品名<sup>とくさんひんめい</sup>が記されていました。荷札<sup>にがし</sup>の一部<sup>いぶ</sup>はのちに木簡<sup>もくかん</sup>として出土<sup>しゅと</sup>し、そこから地域<sup>ちいき</sup>ごとの特産品名<sup>とくさんひんめい</sup>が分かるようになりました。調<sup>てう</sup>は農民<sup>のうみん</sup>が都へ運ばなければならず、その往復<sup>おうふく</sup>の食料<sup>しきりやう</sup>は自分たちで用意<sup>ようい</sup>しなければならないなど、大変負担<sup>たいへんふたん</sup>の重いものとなっていました。



問7 B1 特徴的な部分に注目する 具体・抽象 置き換え

公地公民制では6年ごとに戸籍を作成し、それに基づいて6歳以上の男には2段、女にはその3分の2の口分田を与え、それによって農民の生活を保障し税を確保しようとした。律令制は唐（中国）の政治を参考にしたもので、二官八省などの政治のしくみや税や労役、兵役、土地制度などを定めていました。

問8 A2 比較

雑徭は国司が農民などを年60日を限度として、労働させることができる労役です。兵役のうち九州の防備に派遣される防人は厳しい仕事で、おもに東国の農民がその任につきました。衛士は都の宮門の警備などにあつた兵役、租は稲を国司に納める税のことです。

問9 A1 知識

聖武天皇は仏教をあつく信仰し、仏教によって政治的な争いや災害、疫病から国家を守ってもらうという鎮護国家思想のもと、国ごとに国分寺と国分尼寺を、総国分寺として東大寺を建て、そこに大仏（盧舎那仏）をつくりました。

問10 A1 比較

鑑真は5度にわたる渡航失敗により盲目となりながら来日し、正しい仏教の教えを広め唐招提寺を開いた僧です。行基は橋を架けるなどの社会事業などを行い、また政府の要請を受けて東大寺の大仏造営に協力した僧です。阿倍仲麻呂は717年に遣唐使とともに留学生として唐にわたり、のちに唐の高官となった人物です。阿倍仲麻呂は帰国の際乗船した船が遭難し、日本に帰国することはできませんでした。犬上御田鍬は614年に遣隋使、630年には第1回遣唐使として中国に渡った人物です。

問11 A1 知識

風土記は国ごとの産物、伝説、自然などをまとめた書物です。現在は常陸、出雲、播磨、豊後、肥前の5つの風土記が残っていますが、そのうち『出雲国風土記』のみが完全な状態で残されています。720年に成立した日本書紀には、神代から持統天皇までの歴史が記されています。万葉集は仁徳天皇の代から8世紀半ばまでの和歌約4500首が集められた歌集です。大伴家持らが編さんしたものとされ、8世紀後半頃に完成しました。古事記は712年に成立した、神代から推古天皇までの天皇や皇室の伝承などについて記された書です。

問12 A2 具体・抽象 比較

桓武天皇は律令政治を立て直すことなどを目的に、長岡京次いで平安京への遷都、健甕の制の実施、坂上田村麻呂に命じた蝦夷の征討、勘解由使の設置、最澄や空海の保護などを行いました。

上皇として院政を始めたのは白河上皇で、1086年のことです。

問13 A2 比較 理由

藤原氏は娘を天皇と結婚させ、生まれた孫を天皇とすることで外戚として朝廷での勢力を伸ばしました。また他の有力な貴族を次々と朝廷から追放したり、寄進を受けた土地から多くの収入を得て資金源としたことなども、勢力を伸ばすことができた一因となりました。イの事実はありません。

問14 A1 比較

元伊予国の国司であった藤原純友は、939年から941年にかけて瀬戸内海<sup>せとないかい</sup>の海賊<sup>かいぞく</sup>を率<sup>ひき</sup>いて西日本各地を襲<sup>おそ</sup>いました。平将門<sup>たいらのまさかど</sup>は939年に現在の茨城県<sup>はんらん</sup>、栃木県<sup>しんのう</sup>周辺で反乱<sup>はんらん</sup>を起こし新皇<sup>しんのう</sup>と称した人物です。源義家<sup>みなもとのもといえ</sup>は後三年合戦<sup>なかつののくまたり</sup>を平定した人物、中臣鎌足<sup>なかつのおおえのおうじ</sup>は中大兄皇子<sup>なかつのおおえのおうじ</sup>とともに大化の改新<sup>おほえのあらたけ</sup>を起こした人物です。

問15 A2 比較

平清盛<sup>たいらのきよもり</sup>は現在の兵庫県神戸港<sup>おおのわだのとり</sup>の一部である大輪田泊<sup>しゅうちく</sup>を修築<sup>しゅうしき</sup>して、積極的に宋<sup>そう</sup>との貿易<sup>ぼうえき</sup>を行い多くの利益<sup>りえき</sup>を得ました。また天皇の外戚<sup>がいせき</sup>となることで朝廷での勢力を伸ばし、多くの荘園<sup>しょうえん</sup>から収入を得て資金源<sup>しきんげん</sup>としたことなども、勢力を伸ばすことができた一因<sup>いちいん</sup>となりました。平清盛は宋との貿易<sup>ぼうえき</sup>で宋銭<sup>そうせん</sup>や陶磁器<sup>とうじき</sup>などを輸入<sup>ゆにゅう</sup>しましたが、特に宋銭<sup>そうせん</sup>は大量に輸入され、以後国内を流通<sup>りゅうつう</sup>する貨幣<sup>かへい</sup>の中心となりました。輸出品<sup>しゅしゅつひん</sup>には硫黄<sup>いおう</sup>や刀剣<sup>とうけん</sup>、扇<sup>おうぎ</sup>などがありました。

問16 A1 知識

現在の広島県<sup>あきのくに</sup>にあたる安芸国<sup>しはい</sup>を支配<sup>しはい</sup>地域<sup>しはい</sup>においていた平清盛<sup>たいらのきよもり</sup>は、厳島神社<sup>いつくしま</sup>をあつく信仰<sup>しんこう</sup>し平氏の氏社<sup>うやま</sup>のように敬<sup>うやま</sup>っていました。清盛は厳島神社<sup>いつくしま</sup>の社殿<sup>しやてん</sup>を現在<sup>げんざい</sup>みられる形<sup>かたち</sup>に造営<sup>ぞうえい</sup>するなどしましたが、建立<sup>けんりつ</sup>したわけではありません。

(記述問題の採点について)

・明らかな誤字・脱字がある場合…－1点

③問6 「木簡(もっかん)」のことばが使用  
されていない場合…－2点

